



1. IFMIF/EVEDA 事業の新事業長が就任

7月9日にIFMIF/EVEDA事業の新事業長ホアン・ナスター (Juan Knaster) 氏が着任した。ナスター氏はこれまで、1999年から2005年までCERNの大型ハドロン衝突型加速器計画に参加したほか、2006年からは原子力機構那珂核融合研究所のITER共同作業サイトでITER工学設計活動のため共同中央チームに参加、2007年にはカダラッシュに移りTFコイルの技術的責任者として活躍され、JAEAとの関係においては長い履歴を持っている。

新事業長は、就任後、青森県庁や六ヶ所村に表敬訪問を行い、今後のIFMIF/EVEDA事業などの今後の抱負を述べた。既に、IFMIF/EVEDA事業についての日欧実施機関の調整業務などに携わり、多忙な毎日を送っている。

2. 在日仏国大使が国際核融合エネルギー研究センターを視察

6月21日にクリスチャン・マセ在日仏国大使が、クリストフ・グゼリ在日フランス大使館原子力参事官、ベルナルド・サラノンCEA局長代理とともに六ヶ所サイトが六ヶ所サイトを視察し、ノエIFERC事業チームCSCユニットリーダーや奥村特別研究員らから、計算機・遠隔実験棟において、欧州が調達、運用している高性能計算機（スーパーコンピューター、愛称「六ちゃん」）の説明を受けた。

サラノン局長代理は事前に原型炉R&D棟の研究施設やIFMIF/EVEDA加速器開発棟を見学したほか、前日の6月20日には、震災復旧完了のための機能性確認試験を開始した大洗リチウム試験ループ施設も視察した。

3. 平野文部科学大臣が国際核融合エネルギー研究センターを視察

6月28日に国際核融合エネルギー研究センターにおいて、平野文部科学大臣による視察が行われた。鈴木理事長の挨拶と奥村特別研究員によるBA活動概況説明に続いて、計算機・遠隔実験棟で高性能計算機（愛称「六ちゃん」）と原型炉R&D棟で微細構造装置群室の電子顕微鏡等のBA活動のための研究開発に係る設備を視察した。視察後のプレス会見では、大臣より、国際核融合エネルギー研究センターについて、優れた研究環境の下で着実に研究が進められており、今後とも選り優れた頭脳集積が図れることを期待しているという講評があった。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 ホアン・ナスター(Juan Knaster)IFMIF/EVEDA 新事業長。



図2 計算機・遠隔実験棟の計算機室を視察するマセ大使（左端）とサラノン局長代理（左から2人目）（平成24年6月21日、国際核融合エネルギー研究センター計算機・遠隔実験棟にて）。



図3 計算機室にて六ちゃんを構成するCPUの説明を受ける平野大臣と随行の大竹官房審議官（平成24年6月28日、国際核融合エネルギー研究センター計算機・遠隔実験棟にて）。